

⑦根崎八幡神社本殿（市指定文化財）

根崎八幡神社は、寛永15年(1638)に津島牛頭天王社を祀ったことが始まりです。元禄7年(1694)には、領主松平正基の屋敷近くにあった江戸深川八幡社(現在の富岡八幡宮)から分霊を請けて八幡社としました。

現在の本殿は、寛保4年(1744)に建立されました。一間社流造の柿葺で、流造としては中型になります。浜床を設け正面扉口には幣軸をまわすなど、人念な造りが見られます。柿板から、本殿建立時に西尾の倉橋嘉右衛門によって屋根が葺かれたことがわかりました。

平成21年(2009)には本殿を除く社殿が新たに造営されました。
*本殿は覆殿の内部にあるため、普段は見られません。



絵馬および奉納額（市指定有形文化財）

絵馬および奉納額3面は、拝殿内に掲げられています。

〇為朝と鬼の力競べの図 寛政7年(1795)

奉納者である山本氏は、根崎村で庄屋を務め、天保7年(1757)の矢作川決壊時には、伊勢神宮の神符を堤防に埋めて、復旧工事を成功させたといわれます。



〇群馬図 寛政9年(1797)

奉納者の「源正賢」は、根崎の領主で三千石の旗本 松平正賢のこです。また、絵師の「狩野素川」は、幕府の御用絵師の狩野彰信(章信)です。



〇人者依神之徳添運 天保11年(1840)

奉納者は、松平正賢の子の正相(正延)です。文政6年(1823)に領地を引き継ぎ、親子2代に渡って領地の八幡社に絵馬と額を奉納しています。



⑧根崎陣屋跡

慶安3年(1650)、領主の松平隆綱は根崎村を東端村から分離独立させるとともに、陣屋(代官所)を設けました。当初、その管轄地は根崎村をはじめ碧海郡八ヶ村でしたが、元禄16年(1703)の変更に三ヶ村(根崎・東端・和泉)の三千石となり、幕末を迎えました。



⑨由利姫の祠

由利姫は東端城主 永井伝八郎直勝の妻で、天正13年(1585)、離縁され故郷の等津(西尾市)へ帰される途中、根崎の地で自害して果てたと伝えられます。
村人は姫の霊を祀り、塚と祠を設けたとされます。



⑩子安観音

宝亀2年(771)初春、天の星が西南の海に落ち、金色の観音菩薩像があらわれたと伝えられます。そこで丘に祠を建て、観音菩薩像を安置しました。

現在は、子安観音普大菩薩として、城ヶ入町の地元住民が管理しています。毎月18日の命日に近い日曜日の祭礼には、多くの参詣者が訪れます。また、入口付近は「城藤園」として藤の名所として知られます。



子安観音本堂

⑪城泉寺本堂・榊原喜与七頌徳碑

城泉寺は、真宗大谷派で、山号を蘭光山といいます。貞享2年(1685)に慶信によって開かれました。現在の本堂は、昭和5年(1930)建造の旧安城武徳殿を、昭和51年(1976)に移築復元し、本堂兼地区公民館としています。

また、境内には、明治4年(1871)の廃仏毀釈の反対運動(鷲塚騒動)[大浜騒動]で処刑された、城ヶ入村の農民榊原喜与七をたたえた頌徳碑が建立されています。



城泉寺本堂



榊原喜与七頌徳碑

本図の位置



安祥文化のさと
安城市歴史博物館
安城市埋蔵文化財センター

歴史の散歩道

明治航空基地と
東端・根崎・城ヶ入を歩く

※掲載されている文化財の中には、個人所有のものがあり、生活の場でもあります。見学の際には所有者に承諾を得たり、ごみは持ち帰るなどマナーを守っていただきます。また、個人宅や学校を訪問するときも、必ず許可を得るようにしてください。

安城市歴史博物館・安城市埋蔵文化財センター



〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地
歴史博物館 TEL 0566-77-6655 FAX 0566-77-6600
埋蔵文化財センター TEL 0566-77-4490 FAX 0566-77-6600
URL <http://www.city.anjo.aichi.jp>

2016.3 5,000(S)

環境に優しい植物油インキを使用しています。

安城

歴史の散歩道

明治航空基地と東端・根崎・城ヶ入を歩く



昭和20年3月28日 慧星尾翼の前で

安城市教育委員会

①東端八剣神社本殿・覆殿（市指定文化財）

東端八剣神社は、平安時代末期の安元元年(1175)または治承4年(1180)の創立と伝えられます。その後、弘治2年(1556)に現在地へ移動し、集落の氏神となりました。本殿は、元禄14年(1701)の建立と推定され、希少な二間社流造の柿葺です。妻飾も又首組とするなど、古い建築様式が見られます。また、柿板葺き替え時の板札から、根崎八幡神社と同じ西尾の倉橋嘉右衛門の手によることがわかりました。

本殿を取り囲むように立てられている覆殿は、鬼瓦に記された年号から、寛政10年(1798)の建立とわかります。また、作風から、牛久保(豊川市)の堂宮大工 岡田五左衛門またはその一門による建造物と推定されます。
*本殿は覆殿の内部にあるため、普段は見られません。



本殿



覆殿

②東端貝塚（市指定史跡）

東端貝塚は、油ヶ淵を望む長田川左岸の標高6~8mの台地上に立地する縄文時代晩期から弥生時代前期の貝塚です。かつては、周辺の小山貝塚、小山東貝塚などとあわせて、西三河屈指の貝塚でした。
貝の種類は、干潟に生息するハイガイやマガキなどで、油ヶ淵が海だったころの環境を表しています。



③東端城址（市指定史跡）

天正8年(1580)に、大浜(碧南市)の長田尚勝が築城したと伝えられます。同12年(1584)には、尚勝の兄直勝が城主となり、姓を永井に改めて永井伝八郎直勝と名乗りました。直勝は、元和3年(1617)の大坂冬の陣で活躍したことから常陸国笠間城の城主となり、東端城を転出したため、廃城となりました。

主曲輪は、方形あるいは台形で、高さ8~10mの土塁に囲まれていました。北東から南の土塁の外側には、幅10~15mの帯曲輪(城山稲荷の場所)があります。



④念空寺

念空寺は、真宗大谷派に属し、山号を中根山といいます。以前から東端に留まっていた西が、永正年間(1504~21)に念仏道場を開いたのが始まりと考えられます。その後、江戸時代はじめに現在の地に移転しました。

市指定文化財として、絵画「方便法身尊像」、書跡「六字名号」と「九字名号」、典籍「御文」があります。



本堂

⑤西蓮寺

西蓮寺は、真宗高田派で、山号を西光明山といいます。寺伝では、醍醐天皇第四皇子重明親王の子俊明が、当地で亡くなった母の菩提を弔うため、天慶2年(939)に一字を設けたのが始まりとされます。その後、弘治2年(1556)に現在地へ移りました。

都築弥厚茶室（市指定文化財）



都築弥厚茶室は、東端村の大橋新五郎が、天保4年(1833)に都築弥厚邸から西蓮寺に移築、寄進したものです。岡崎の宗偏流の茶人木蔵庵龍溪の作と推定されています。

西蓮寺のイチョウ（市指定天然記念物）

イチョウは雄木で、胸高囲3.2m、樹高25mを計ります。堀内町の大イチョウ(雌木 市指定天然記念物 樹高30m)とともに市内の二大巨樹となっています。



南蛮屏風（県指定文化財）



南蛮屏風 右隻

西蓮寺に伝わる南蛮屏風は、小型で携帯用のものです。左隻には東南アジアの港を出港する風景が、右隻には日本の港に到着した様子がそれぞれ描かれ、珍しい動物や南蛮寺(教会)も見られます。

南蛮屏風は全国で約60双が現存し、この屏風は江戸時代に狩野内膳の図をベースに描かれたと考えられます。

⑥長福寺

長福寺は、浄土宗に属し、山号を萬喜山といいます。長享年間(1487~89)に薬師堂を設けたのが始まりと伝えられます。現在は、紫陽花が咲くこと知られており、アジサイ寺として親しまれています。江戸時代の僧門空により彫られた十二神将のひとつ「伐折羅大将立像」【市指定】が伝えられています。

